

国際経済関係論 I

1. イントロダクション

柳瀬 明彦

1

国際経済学とは？

- 国境を越えた経済取引やそれに伴う問題を対象とする学問
 - どんなものがあるか？：
 - 商品・サービスの貿易
 - 国際的な労働移動
 - 企業の国際化
 - 国際的な資金の貸借
 - 為替レートの変動
 - マクロ経済政策の国際的波及
- 実物(モノ・ヒト)的な取引
- 金融(カネ)的な取引
- モノ・ヒト・カネの国際的移動: 飛躍的に拡大(世界経済のグローバル化)

2

国際貿易論と国際金融論

- 国際貿易論
 - 近年では、商品・サービスの交易だけでなく、生産要素(資本や労働)の国際移動も研究対象
 - ⇒ 実物(モノ・ヒト)的側面に着目
- 国際金融論
 - 外国為替, 国際金融市場, 通貨危機, 累積債務問題, 国際通貨制度etc.
 - ⇒ 金融(カネ)的側面に着目
- 伝統的に「国際経済学＝国際貿易論」
 - 貿易に関する記録は古くから残っている
 - 貨幣的側面も, 近年では重要

3

国際貿易論で扱うトピック

- なぜ貿易が行われるのか？
 - ⇒ 貿易しない(閉鎖経済)よりも望ましいから(貿易利益の存在)
- それぞれの国はどのような形で貿易を行うか？
 - どの財を輸出し, どの財を輸入するのか？(貿易パターンの決定 ← 比較優位論)
 - 似たような財を輸出し輸入する可能性(産業内貿易 ← 規模の経済と製品差別化)
- 生産要素(労働・資本・土地)の国際移動の要因とその効果
- 自由な貿易や国際要素移動の是非
 - 保護貿易措置がなぜ行われるのか？
 - 国際的な貿易ルール(GATT/WTO体制, 地域的貿易協定)

4

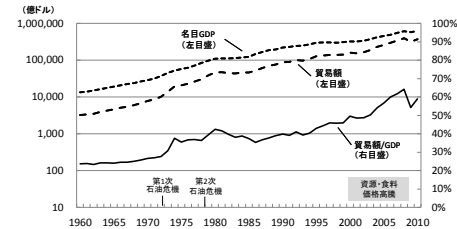
国際貿易の現状

- 参考文献: 阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学(有斐閣アルマ)』第1章
- 世界と日本の貿易額の推移
 - 世界と日本の貿易額やその対GDP比の推移
- 世界と日本の品目別貿易額
 - 世界と日本の商品貿易とサービス貿易の規模

5

世界の貿易額の推移

- 1960～2010年の世界の貿易額の推移
 - 総貿易額＝商品貿易とサービス貿易の輸出額と輸入額の合計



6

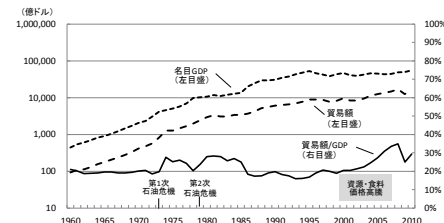
世界の貿易額の推移(つづき)

- 1960～2010年における総貿易額の対GDP比(貿易依存度or貿易開放度)の変化
 - 1960年代: 24%前後 → 2000年代後半: 60%超
 - 資源・食料価格の高騰で一時的に上振れ(1970年代、2000年代)
 - 2009年の貿易依存度の減少: 世界金融危機の影響
- 戦後の世界経済: 付加価値額の伸び < 貿易額の伸び → 貿易依存度が上昇
 - 一定額の付加価値を創出するのに伴う貿易活動が、年々増加
 - 貿易自由化(関税引き下げ、非関税障壁の削減)、輸送費の低下、輸送時間の短縮、貿易金融・保険制度の拡充などのおかげ

7

日本の貿易額の推移

- 1960～2010年の日本の貿易額の推移



8

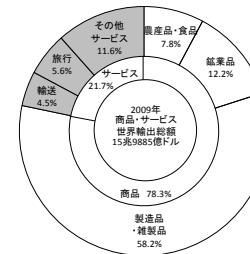
日本の貿易額の推移(つづき)

- 日本の貿易依存度:
 - 2000年代初めまで20%前後(石油危機の時期を除く) → 貿易の面では日本でグローバリゼーションが進展したとはいえない
 - 2000年代に入って20%を超えて上昇
- 貿易依存度上昇の主な要因:
 - アジア諸国との貿易の拡大
 - 原油価格の上昇
- アジア諸国との貿易が拡大した主な理由:
 - これらの国々における経済の急成長
 - 製造工程の一部のアジアへの移転(国際分業の進展)

9

世界貿易の主要品目

- 世界貿易に占める主要品目の割合(2009年)



- 商品貿易とサービス貿易の割合
 - 商品貿易が8割弱、サービス貿易が2割強
- 商品貿易の中では、製造品の比率が大
- サービス貿易は、輸送や旅行などで構成

10

サービス貿易

- サービス貿易:異なる国の居住者間でのサービスの取引
 - 運輸、通信、保険、金融、流通、宿泊、飲食etc.
- サービス貿易の現状
 - 世界のGDPのうちサービス部門が占める割合:約7割
 - 世界の貿易総額のうちサービス貿易が占める割合:約2割
- サービス貿易が少ない理由:
 - サービスを欲する人に地理的に離れた所から供給することが困難
- サービス貿易の今後:
 - 情報通信技術の進展の後押し → 今後大きく伸びる可能性

11

高・中・低所得国の貿易構造

- 貿易構造:その国の発展段階によって大きく異なる
- 高所得国の品目別商品貿易額(2009年)

	対低所得国		対中所得国	
	輸出	輸入	輸出	輸入
総額(億米ドル)	869	1,004	18,454	28,166
総額に占める率(%)				
農産物・食料	12.6	17.5	8.4	8.7
穀物	4.1	0.7	1.4	0.5
鉱石・非鉄金属・燃料	12.9	44.6	10.7	23.5
原油	0.4	34.1	0.5	12.7
石油製品	10.7	1.6	4.4	3.6
製造品	67.3	33.2	75.2	64.0
化学製品	11.0	0.8	14.0	3.6
鉄鋼	2.9	0.1	3.4	1.7
機械・輸送用機器	42.0	1.6	41.8	31.8
家具・繊維・履物	2.6	28.3	3.2	13.0
その他	9.0	2.4	13.3	14.2
雑製品	7.2	4.8	5.7	3.8

12

高・中・低所得国の貿易構造(つづき)

- 高所得国－低所得国の特徴: 高所得国は高い技術や巨額の設備を必要とする商品を輸出し、低所得国は地下資源や軽工業品を輸出
 - 産業間貿易(互いに異なる産業で生産された商品を輸出)
 - 垂直貿易(ある国が原材料を輸出し、他の国がそれを加工した商品を輸出)
- 高所得国－中所得国の特徴:
 - 産業内貿易(同じ産業で生産された商品について輸出も輸入も行う)
 - 水平貿易(最終生産物を互いに取引する)

13

日本の品目別貿易額

• 日本の品目別商品貿易額(2011年)

	(単位: 億円)		
	輸 出	輸 入	収 支
食料品	3,591	58,542	-54,952
原料品	9,716	52,703	-42,988
鉱物性燃料	12,471	218,161	-205,691
化学製品	67,980	60,976	7,004
原料別製品	87,861	60,692	27,169
一般機械	138,033	49,697	88,336
電気機器	116,001	79,888	36,112
輸送用機器	140,334	17,376	122,958
その他	79,478	83,075	-3,597
総額	655,465	681,112	-25,647
アジア(除く中東)	366,859	303,913	62,945
北 米	107,271	69,702	37,569
西 欧	81,503	70,307	11,196
その他	99,833	237,190	-137,357

- 日本の貿易の特徴: 産業間貿易・垂直貿易の様相が強い
 - 輸入超過: 鉱物性燃料、食料品、原料品
 - 輸出超過: 輸送用機器、一般機械
- 主要な貿易相手国:
 - 輸出入ともにアジア諸国(中東諸国を除く)
 - 総額の約半分

14

日本の品目別貿易額(つづき)

• 日本の品目別サービス収支額(2010年)

	受 取	支 払	収 支
輸 送	34,148	40,771	-6,623
旅 行	11,586	24,462	-12,875
その他サービス	78,284	72,929	5,356
通 信	645	900	-255
建 設	9,337	6,919	2,418
保 険	1,118	5,968	-4,851
金 融	3,166	2,765	401
情 報	918	3,135	-2,217
特許等使用料	23,422	16,480	6,943
その他営利業務	37,282	34,376	2,906
文化・興業	131	821	-690
公的その他サービス	2,266	1,565	701
総 額	124,019	138,161	-14,143
アジア(除く中東)			5,449
北 米			-5,884
ヨーロッパ			-1,409
その他			-12,299

- 黒字幅が最も大きいもの: 特許使用料(6943億円)
- 赤字幅が最も大きいもの: 旅行(1兆2875億円)
 - 日本人海外旅行者数が訪日外国人旅行者数を大幅に上回っていることを反映

15